

土壌ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

< H21年度福島県による土壌分析結果 >  
Cs-137:ND ~ 21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・湿土)

試料採取場所	【定点】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	4/14	4/14	4/14	
分析機関	JAEA	JAEA	JAEA	
測定日	4/15	4/15	4/15	
核種	I-131(約8日)	8.8E+05	1.0E+03	1.5E+06
	I-132(約2時間)	*3	ND	*3
	Cs-134(約2年)	5.2E+05	4.2E+02	2.5E+06
	Cs-136(約13日)	2.4E+04	ND	1.1E+05
	Cs-137(約30年)	5.3E+05	4.0E+02	2.5E+06
	Te-129m(約34日)	2.4E+05	ND	1.2E+06
	Te-132(約3日)	5.1E+03	ND	2.8E+04
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	1.1E+03	ND	3.9E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	2.9E+03	ND	3.7E+03

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。  
娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。  
(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価。)